

メモ (形式的冪級数)

hos

2019 年 9 月 17 日

大事なこと：収束のことは考えない．その代わり，知らない演算をしない．

\mathbb{N} は非負整数全体の集合とする^{*1}．

1 形式的冪級数環

R を可換環とする^{*2}．

X を不定元として， R の加算個の直積 $\prod_{i \in \mathbb{N}} R$ の元 $(a_i)_{i \in \mathbb{N}}$ を形式的に $\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i$ (あるいは $a_0 + a_1 X + a_2 X^2 + \dots$) と書いたものの集合を $R[[X]]$ とする．この元を $a(X)$ のように書くこともある． a_i を $a(X)$ の i 次の係数 (あるいは X^i の係数) と呼び， $[X^i]a(X)$ のように書く．0 次の係数を定数項と呼ぶ．

$\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i, \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \in R[[X]]$ に対し，加法と乗法を

$$\begin{aligned} \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i + \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i &:= \sum_{i \in \mathbb{N}} (a_i + b_i) X^i, \\ \left(\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i \right) \left(\sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \right) &:= \sum_{i \in \mathbb{N}} \left(\sum_{j \in \mathbb{N}, i+j=k} a_i b_j \right) X^k \end{aligned}$$

で定めると，可換環になることを示す．加法の単位元は $0 = 0 + 0X + 0X^2 + \dots$ ，乗法の単位元は $1 = 1 + 0X + 0X^2 + \dots$ ．乗法の結合法則のみやや非自明で， $\left(\left(\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i \right) \left(\sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \right) \right) \left(\sum_{i \in \mathbb{N}} c_i X^i \right)$ の m 次の係数が

$$\sum_{l, k \in \mathbb{N}, l+k=m} \left(\sum_{i, j \in \mathbb{N}, i+j=k} a_i b_j \right) c_k = \sum_{i, j, k \in \mathbb{N}, i+j+k=m} a_i b_j c_k$$

となることから従う．この可換環 $R[[X]]$ を， R 係数形式的冪級数環と呼ぶ．

さらに， $r \in R$ はそのまま $r + 0X + 0X^2 + \dots \in R[[X]]$ とみれるので，包含 $R \hookrightarrow R[[X]]$ により $R[[X]]$ は R 代数でもある．

例． $(1 + X)(1 + X + X^2 + X^3 + \dots) = 1 + 2X + 2X^2 + 2X^3 + \dots$ ．

^{*1} 普段は $\mathbb{Z}_{\geq 0}$ とかを使って \mathbb{N} という記号を避けようと思っているのですが， \sum の下にたくさん書くので仕方なく．

^{*2} 環と言ったら乗法の単位元の存在を仮定します．

$a(X) \in R[[X]]$ に対し, 集合 $a(X)R[[X]] := \{a(X)b(X) \mid b(X) \in R[[X]]\} \subseteq R[[X]]$ は $R[[X]]$ のイデアルである. $b(X), c(X) \in R[[X]]$ が $b(X) - c(X) \in a(X)R[[X]]$ を満たすことを $b(X) \equiv c(X) \pmod{a(X)}$ と書く. $n \in \mathbb{N}$ に対し, $\text{mod } X^n$ での合同は, n 次未満の係数が等しいことを表す.

例. $0 + 1X + 2X^2 + 3X^3 + 4X^4 + \cdots \equiv X + 2X^2 \pmod{X^3}$.

次の命題は, 突き詰めると環の位相の話になるが, 本稿では技術的な補題として用いる.

命題 1. $a(X), b(X) \in R[[X]]$ について, $a(X) = b(X)$ である必要十分条件は, 任意の $n \in \mathbb{N}$ に対して $a(X) \equiv b(X) \pmod{X^n}$ であること.

証明. (必要性) 明らか.

(十分性) 任意の $i \in \mathbb{N}$ に対し, $n = i + 1$ ととって $a(X) \equiv b(X) \pmod{X^{i+1}}$ なので, $a_i = b_i$ となる. \square

2 乗法の逆元

環の単元とは, 乗法の逆元をもつ元のこと. 可逆元. 1 の約数.

命題 2. $\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i \in R[[X]]$ が単元であるための必要十分条件は, a_0 が R の単元であること.

証明. (必要性) $\sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \in R[[X]]$ が $\left(\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i\right) \left(\sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i\right) = 1$ を満たすとする, 定数項を比較して, $a_0 b_0 = 1$ である.

(十分性) a_0 が単元のとき, $\sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \in R[[X]]$ を

$$\begin{aligned} b_0 &= a_0^{-1}, \\ b_i &= -a_0^{-1} \sum_{j \in \mathbb{N}, 1 \leq j \leq i} a_j b_{i-j} \quad (i \geq 1) \end{aligned}$$

として定めると, $\left(\sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i\right) \left(\sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i\right) = 1$ を満たす. \square

$a(X) \in R[[X]]$ の乗法の逆元が存在するとき, それは一意なので, $a(X)^{-1}$ や $\frac{1}{a(X)}$ と書く.

例. $r \in R$ に対し, $(1 - rX)^{-1} = \sum_{i \in \mathbb{N}} r^i X^i$.

ここまでで定めた加減乗除については、一般の R 代数で成り立つことを用いて普通の計算ができるし、普通の表記をする。

例. $a(X) \in R[[X]]$ に対して、 $a(X)^2$ とは $a(X)a(X)$ のことであり、 $a(X)^2$ の逆元は $(a(X)^{-1})^2$ であり $a(X)^{-2}$ と書く。

例. 正の整数 n に対し、 $(1-X)^{-n} = \sum_{i \in \mathbb{N}} \binom{i+n-1}{n-1} X^i$.

3 合成

形式的冪級数の合成は、 X の部分に「代入」していいものは定数項が 0 でなければならないことに注意を要する。

定義. $a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}, i \geq 1} a_i X^i \in XR[[X]]$ と $b(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \in R[[X]]$ に対し、 $b(X)$ と $a(X)$ の合成 $(b \circ a)(X)$ を

$$(b \circ a)(X) := \sum_{i \in \mathbb{N}} \left(\sum_{k \in \mathbb{N}, j_1, \dots, j_k \in \mathbb{N}, j_1, \dots, j_k \geq 1, j_1 + \dots + j_k = i} b_k a_{j_1} \cdots a_{j_k} \right) X^i$$

で定める。内側の \sum について、 $k \leq i$ が従うためこれは有限和である。特に、 $(b \circ a)(X)$ の定数項は a_0 である。

$(b \circ a)(X)$ の i 次の係数は、 $b_k a(X)^k$ の i 次の係数を $k \in \mathbb{N}$ について足したものである。つまり、形式的に $(b \circ a)(X) = \sum_{k \in \mathbb{N}} b_k a(X)^k$ と書きたいが、右辺は $R[[X]]$ の元の無限和であり定義されておらず、各係数ごとに有限和として定義できるための条件が $a(X)$ の定数項が 0 であることに他ならない。このとき、 $k > i$ の項は i 次の係数に影響を与えない。言い換えると、

命題 3. $a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}, i \geq 1} a_i X^i \in XR[[X]]$ と $b(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i \in R[[X]]$ に対し、

$$(b \circ a)(X) \equiv \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} b_k a(X)^k \pmod{X^n}$$

が成り立つ。

証明. $i \in \mathbb{N}$, $i < n$ に対し, $k \leq i$ ならば $k < n$ であるから,

$$\begin{aligned}
(b \circ a)(X) &\equiv \sum_{i \in \mathbb{N}, i < n} \left(\sum_{k \in \mathbb{N}, j_1, \dots, j_k \in \mathbb{N}, j_1, \dots, j_k \geq 1, j_1 + \dots + j_k = i} b_k a_{j_1} \cdots a_{j_k} \right) X^i \\
&= \sum_{i \in \mathbb{N}, i < n} \left(\sum_{k \in \mathbb{N}, k < n, j_1, \dots, j_k \in \mathbb{N}, j_1, \dots, j_k \geq 1, j_1 + \dots + j_k = i} b_k a_{j_1} \cdots a_{j_k} \right) X^i \\
&= \sum_{i \in \mathbb{N}, i < n} \left(\sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} [X^i] b_k a(X)^k \right) X^i \\
&= \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} \left(\sum_{i \in \mathbb{N}, i < n} [X^i] b_k a(X)^k \right) X^i \\
&\equiv \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} b_k a(X)^k \pmod{X^n}
\end{aligned}$$

である. □

合成を「代入」と考えたとき成り立ってほしい性質たちを確認していく.

命題 4. $a(X) \in XR[[X]]$ は R 代数の準同型 $a^*: R[[X]] \rightarrow R[[X]]$; $b(X) \mapsto (b \circ a)(X)$ を定め, これは $a^*(X) = a(X)$ を満たす. すなわち, $b(X), c(X), d(X) \in R[[X]]$ に対し,

- (1) $b(X) + c(X) = d(X)$ ならば $(b \circ a)(X) + (c \circ a)(X) = (d \circ a)(X)$.
- (2) $b(X)c(X) = d(X)$ ならば $(b \circ a)(X)(c \circ a)(X) = (d \circ a)(X)$.
- (3) $b(X) = 1$ ならば $(b \circ a)(X) = 1$.
- (4) $b(X) = X$ ならば $(b \circ a)(X) = a(X)$.

証明. (1) 合成の定義から明らか.

(2) $a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i$, $b(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} b_i X^i$, $c(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} c_i X^i$ とする. $n \in \mathbb{N}$ を任意にとる. 命題 3 より,

$$\begin{aligned}
(a \circ d)(X)(b \circ d)(X) &\equiv \left(\sum_{i \in \mathbb{N}, i < n} a_i d(X)^i \right) \left(\sum_{j \in \mathbb{N}, j < n} b_j d(X)^j \right) \\
&= \sum_{k \in \mathbb{N}, k < 2n} \left(\sum_{i, j \in \mathbb{N}, i, j < n, i+j=k} a_i b_j \right) d(X)^k \\
&\equiv \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} \left(\sum_{i, j \in \mathbb{N}, i+j=k} a_i b_j \right) d(X)^k \\
&= \sum_{k \in \mathbb{N}, k < n} c_k d(X)^k \\
&\equiv (c \circ d)(X) \pmod{X^n}
\end{aligned}$$

である. よって, 命題 1 より $(a \circ d)(X)(b \circ d)(X) = (c \circ d)(X)$ が従う.

$$(3) \ b_0 \text{ のみ } 1 \text{ なので, } (b \circ a)(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} \left(\sum_{0=i} 1 \right) X^i = 1.$$

$$(4) \ b_1 \text{ のみ } 1 \text{ なので, } (b \circ a)(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} \left(\sum_{k_1 \in \mathbb{N}, k_1 \geq 1, k_1=i} a_{k_1} \right) X^i = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i = a(X).$$

□

命題 5. $a(X), b(X) \in XR[[X]]$ と $c(X) \in R[[X]]$ に対し, $(c \circ (b \circ a))(X) = ((c \circ b) \circ a)(X)$.

証明. $c(X) = X$ のとき, 命題 4 (4) より,

$$(c \circ (b \circ a))(X) = (b \circ a)(X) = ((c \circ b) \circ a)(X)$$

である. すなわち $(b \circ a)^*(X) = (a^* \circ b^*)(X)$ である ($(b \circ a)(X)$ は形式的冪級数の合成, $a^* \circ b^*$ は R 代数の準同型の合成であることに注意する).

$R[[X]]$ は X で生成されるので, 準同型は X の行き先で定まる. よって $(b \circ a)^* = a^* \circ b^*$ であり, 任意の $c(X)$ に対し

$$(c \circ (b \circ a))(X) = (b \circ a)^*(c(X)) = (a^* \circ b^*)(c(X)) = ((c \circ b) \circ a)(X)$$

となる.

□

これらの理解のもと, $(b \circ a)(X)$ を $b(a(X))$ と書く. とくに, $b(0)$ は $b(X)$ の定数項に等しい.

$$\text{例. } a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i \in R[[X]] \text{ と正の整数 } n \text{ に対し, } a(X^n) = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^{ni}.$$

$$\text{例. } a(X) = \frac{X}{1-X} = \sum_{i \in \mathbb{N}} X^{i+1} \in R[[X]] \text{ と } n \in \mathbb{N} \text{ に対し, } \underbrace{(a \circ \cdots \circ a)}_n(X) = \frac{X}{1-nX} = \sum_{i \in \mathbb{N}} n^i X^{i+1}$$

(n 回合成を a^n と書くと $a^n(X)$ か $a(X)^n$ かかなり紛らわしいため避けている).

4 形式微分

多項式の微分を拡張して形式微分が定義できる. 記法についてはいくつかの流儀・用途がある.

定義. R 加群の準同型 $D_X: R[[X]] \rightarrow R[[X]]$ を, $a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i \in R[[X]]$ に対し,

$$D_X a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}, i \geq 1} i a_i X^{i-1}$$

として定める. $D_X a(X)$ を $a'(X)$ と書く. D_X を X による **形式微分** と呼ぶ.

D_X は R 加群としては準同型である (線型性を満たす) が R 代数の準同型ではない (積は保たない) ことに注意する. 積に関しては, 以下のいわゆる Leibniz rule を満たす.

命題 6. $a(X), b(X) \in R[[X]]$ に対し, $D_X(a(X)b(X)) = (D_X a(X))b(X) + a(X)(D_X b(X))$.

証明. D_X が R 加群の準同型なので, R 加群としての基底についてのみ示せばよい. $a(X) = 1$ または $b(X) = 1$ のときは $D_X(1) = 0$ よりよい. $a(X) = X^m, b(X) = X^n$ ($m, n \in \mathbb{N}, m, n > 0$) のとき,

$$(D_X(X^m))b(X^n) + X^m(D_X(X^n)) = mX^{m-1} \cdot X^n + X^m \cdot nX^{n-1} = (m+n)X^{m+n-1} = D_X(X^{m+n})$$

より成り立つ. □

以下はいわゆる chain rule である.

命題 7. $a(X) \in XR[[X]]$ と $b(X) \in R[[X]]$ に対し, $D_X(b \circ a)(X) = b'(a(X))a'(X)$.

証明. D_X が R 加群の準同型であることと命題 4 より, $b(X) = X^n$ ($n \in \mathbb{N}$) のときについて示せばよい. このとき命題 4 より $(b \circ a)(X) = a(X)^n$ である. $n = 0$ のときはよい. $n \geq 1$ のとき, 命題 6 を繰り返し用いて,

$$D_X(b \circ a)(X) = D_X(a(X)^n) = na(X)^{n-1}a'(X) = b'(a(X))a'(X)$$

となりよい. □

例. $a(X) = \sum_{i \in \mathbb{N}} a_i X^i$ に対し, $D_X a(0) = a_1$ である. より一般に, n 階微分を考えると, $D_X^n a(0) = \underbrace{D_X \cdots D_X}_n a(0) = n!a_n$ である.

例. $(1-X)^{-1} = \sum_{i \in \mathbb{N}} X^i$ について, $D_X(1-X)^{-1} = \sum_{i \in \mathbb{N}, i \geq 1} iX^{i-1} = (1-X)^{-2}$.

- 5 形式積分
- 6 \exp
- 7 \log
- 8 合成逆
- 9 多変数
- 10 形式的 Laurent 級数
- 11 アルゴリズム
- 12 数え上げ